

## ミCHEル・バCHEレ事務局長来日 歓迎レセプションでスピーチ



UN Women創立2年目、去る11月11日夜、待望のミCHEル・バCHEレ初代事務局長初来日が実現しました。事務局長は、翌日から大変パワフルに多方面への表敬、種々の会合をこなされて13日も昼食会や記者会見等の会場を分刻みで駆け巡り、夕刻には日本記者クラブ大ホールでのUN Women日本国内委員会主催の「歓迎レセプション」に出席されました。

日本国内委員会メンバーをはじめ関係団体など100名を超える多彩な方々が待ち受けるなか、同行のクリスティン・ヘトレパートナーシップ戦略部長とともに満面の笑みを浮かべ大拍手に応え「こんばんわ」と握手を交わしながら登場。盛況な歓迎会が始まり、賑やかな交流・会話が弾みました。



UN Women ミCHEル・バCHEレ事務局長  
「来日歓迎レセプション」

2012年11月13日(火) 午後6時～  
日本プレスセンタービル10F  
日本記者クラブ大ホールにて

# 「UN Women国内委員会グローバル会議 2012」報告

国際担当理事 目黒依子

2012年のUN Women国内委員会グローバル会議は、イギリス国内委員会の主催でロンドンにて9月11日～14日に開催された。出席者は、18か国中16の国内委員会からそれぞれ1～3人、UN Women本部よりクリスティン・ヘトレ (kristin Hetle) パートナーシップ戦略部長およびミツシ・ダス (Mitsushi Das) ドナー関連・パートナーシップ専門家が出席し、最大の出席者数となったとのこと。日本国内委員会からは高橋事務局長、本田通訳と目黒が出席した。

各国国内委員会にとって今春以来待望の承認協定は、会議当日も提示がなく、その遅滞の理由として、ユニセフの承認協定の内容に問題があることが発覚したため、UN Womenの協定内容について目下再確認・検討中であること、内容が確定後、国連法規部で承認されて、今年末には各国内委員会に送付する、との説明があった。

この様な状況下で、本部が国内委員会に対してどのような期待をもっているか説明を求めたところ、UN Womenはこれまでのユニフェムと全く異なる機関であることを前提とし、以下の点が明確にされた。

- ① 拠出金一プロジェクト指定はできない。本部作成のプログラムを特定した拠出は認める (コア・ファンドとして)
- ② パブリック・アドボカシー。UN Women

の趣旨及び国内委員会自体の広報を国内で促進する。(国内委の活動の「見える化」の必要性→キャンペーン等については独自のアプローチを本部に提案するくらいの積極性が重要)

- ③ 国連内で求められている会計監査の体系に沿って、本部への国内委員会からの会計報告を期待する。
- ④ 本部と国内委員会の関係は、国内委員会の特殊性を勘案してそのキャパシティを考慮するが、各国に共通の構造を期待したい。
- ⑤ 本部は国連活動に関するより多くの情報を国内委員会に送ることを約束する。そのためにイントラネット等の開設に着手したので活用してほしい。
- ⑥ 国内委員会のキャパシティ強化 (IT、経済界との関係、メディアの活用等) を期待する。

会議全体のプログラムは、国内委と本部とのビジネス対話セッションの他に、国内委の活動報告や、ロンドンの広報・メディア戦略・ファンド・レイジングの専門家たちによるワークショップ・セッションで構成されていた。国内委の多くが新しいUN Womenと国内委との承認協定の遅延に不満を持つ一方、これまでのユニフェムとは全く異なる機関となったUN Womenに大きな期待を抱いている様子が窺えた。

## ■女性の活躍推進 シンポジウム & 交流会 / ご案内

日時：2013年2月15日(金)

### ◆シンポジウム / 午後2時～4時45分

参加費：無料 定員：200名(先着順)

会場：女性就業支援センター ホール

\*東京都港区芝5-35-3 TEL 03-5444-4151

参加申込 ホームページ、メール、またはFAXでお申込みください。

・Eメール：w0215@sweet.ocn.ne.jp ・FAX：045-869-6787

氏名・住所・電話・FAXまたはEメール、「交流会参加の有無」をご明記ください。

託児申込 必ず「託児希望」とご連絡のうえ、当事務局より連絡の取れる電話番号をお知らせください。

### ◆アクティブ交流会 / 午後5時～6時

参加費：800円(実費) 定員：80名(先着順)

会場：女性就業支援センター内 マキバスタイル

## ■2013年度 UN Women日本国内委員会総会 / ご案内

日時 2013年2月15日(金) 午前10時30分～12時

会場 女性就業支援センター 第2セミナー室

主な議題 ・2012年度事業報告書(案) ・収支決算書(案) ・2013年度事業計画書(案) ・収支予算書(案)

## 有馬理事長歓迎の挨拶

バチエレ事務局長、ようこそおいでくださいました。

日本国内委員会のメンバーは、事務局長が来日されるのを本当に、お待ちいたしておりました。心から歓迎いたします。

ここに集まっている人たちは、国内委員会の会員、日本全国各地からの会員、それからジェンダー問題のNGOの方々だけではなく、人間の安全保障や人権問題などのNGOの方もいらっしゃっています。もちろん、ガールスカウト、ソント、ソロブチミストからも。そのほか政府関係者、研究者、企業の執行役員をはじめCSR担当の部署の方々など男性も女性も……一言でいえば事務局長がよくおっしゃるダイバーシティ（多様性）でございます。しかし私たちの目的は一つで、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのために活動を続けています。私たちの歩みは、決して華々しくありませんし、速くありません。しかし私たちが信じているものは、「継続は力なり」ということです。20年間活動を続けてきました。今後とも、バチエレ事務局長とともに活動を続けてまいりたいと思っています。

最後にバチエレ事務局長のご要望により、ここには被災地の人々が駆けつけてくださっています。後程、被災地で活動している状況を視ていただくことになっています。

もう一つ、通訳の長井鞠子さんは、ここまではお仕事でしたが、このレセプションに限っては私たちの仲間として、ボランティア活動で通訳してくださいませ。



左から、通訳の長井さん、バチエレ事務局長、ケルクホフ日本事務所所長代行

## ミチエル・バチエレ事務局長スピーチ



こんばんは、

理事長、それから国内委員会の皆様、またここに集われた友人の方々和日本および世界でジェンダー平等と女性の権利に関して、ずっと仕事をしていらっしゃいました皆様に、お目にかかれて本当に光栄に嬉しく思います。

少し遅れてまいりまして申し訳ございません。外務大臣との会合が少し長引き、遅れてしまい、皆様方を待たせる事になってしまいました。

手元にはスピーチ原稿がありますが、長すぎるので、コレは読みません。

皆様方、20年間ずっと活動して下さった事に対して心より感謝申し上げたいと思います。ユニフェムを通して、そして今はUN Womenを通してご活動いただいております。皆様方のご協力のお蔭で相当の進歩をしたのではないかと思います。まだ、これからはなければならない事はたくさんありますが、皆様のエネルギーとサポートとご貢献をいただきまして、世界の女性そして少女たちの暮らしぶり、あるいは彼女らの生き方がずっと良くなったものと確信しています。

我々は2日間、集中的な日程をこなしながらずっと、いろいろやってまいりました。日本の政府の方々とも随分お会いしました。総理に会いまして、男女共同参画局・局長、外務副大臣、男女共同参画担当副大臣にも会い、たくさんの会合を経てきました。私たちが何を話してきたかといいますと、一方においては日本政府、日本国民の方々がこれだけ

努力してくださった、そしてこれだけの進展をしてくださった事に謝意を表しました。他方、日本の女性がこれから立ち向かわなければならぬ課題を、知見を共有しながら議論しました。特に政府、経済の分野で、ジェンダー平等、女性のエンパワーメントという面でさらに進展しなければいけない課題についても議論しました。

皆様が集めてくださった資金は主に途上国向けに使われている資金であります。UN Womenというのは途上国のためだけの組織ではありません。我々は普遍的なユニバーサル的な任務をいただいております。また世界のなかでは完璧にジェンダー平等を達成した国は、一国もないわけです。どこも完璧にはやっておりません。

ですからまずは日本の政府と国民の皆様、これだけUN Womenのサポートをしてくださった事に御礼を申し上げるとともに、これからジェンダー平等と女性のエンパワーメントのためには一緒に戦っていかなければいけない、努力をしていかなければいけない……そして、より良い条件の改善に向かって我々が進む事ができるように、ぜひ、祈念したいと思っております。

また第3次男女共同参画基本計画におきましては、いろいろなイニシアティブが入っておりますし、いろいろな方向性がそこでは議論されている事はよく知っております。

それから「なでしこキャンペーン」が展開されている。その計画がある事も良く存じています。労働市場にもっと多くの女性が参入できるように、それを支援するための計画が盛り込まれている事も良く知っています。そのような事をなさった日本政府、男女共同参画局に対しましては、本当に賞賛したいと思います。昨日、実は民間部門の代表の方々とも議論いたしました。そして女性の管理職を30%までにするというコミットのために努力する事も伺いました。

それから「女性のエンパワー原則」という文書がありまして、これには世界の450社のCEOがサインをしていますが、そのなかの150社、即ち3分の1は日本の企業であるという事も、ここで認識しておきたいと思っております。これからもっと進捗しなければいけない事は多々あ

りますが、ここまでずいぶん進展したのだと我々、意を強くするようなものがたくさんあると知り、大変うれしく思っています。そういう事が、これからさらに加速度的に進んでいきますよう、心より願っています。

私の仕事はとても容易なものでして、なぜなら少し前にクリスティーヌ・ラガルドIMF専務理事が来日して、いろいろ話をされたからです。我々UN Womenが女性こそが解決策の一部であるとか、女性が日本を救うとか言っても「えー、本当にそうなの？」と疑わしい目で見られてしまいますが、IMFが言うところ「うーん、そういう事もあるかも知れない」という風に皆さん思ってくださいからです。

本当にこのような状況のなかで日々、明確になっている事があります。それは女性が非常に大切な意味で世界の問題に貢献できる。それは、日々新たに明らかになっています。日本は決してその例外ではありません。日本の女性の方々が、抱えている課題の解決策の一部、自らがその解決策の一部である事を私は確信しています。しかも私は今回、皆様方のようなパワフルで強力で、素敵な女性にお会いできて、その確信はもっと強くなりました。

今日は、昼食会には女性議員の方々ともおめにかかりました。これからどういう風に継続的に支援ができるか……いちばん良い方法というのは、とにかく努力、努力をして新しいやり方を見つけて、ネットワーキングしながら努力していく事だと思います。そして我々が進歩するなかで、(我々が)求めている事が、より現実に近くなる事ではないでしょうか。

結局は国連憲章が謳っている事こそが、我々の目的であります。それは、世界の男女が平等な立場に立ち、平等な権利をもってサービスにアクセスし、そして同じようなチャンスを得ることです。(それ)で、我々がやっている事と皆様は本当に同じ方向性を持って、同じ道筋を歩んでおられます。ですから、皆様方の強力な支援に対して心より御礼を申し上げて、私の挨拶の結びと致します。

ありがとうございます。

## 評議員会の設置について

私たち UN Women 日本国内委員会の前身であるユニフェム（国連女性開発基金）日本国内委員会は1992年11月設立されました。

それから19年経った2011年、国連改革により当会は名称を変えました。そして今までの実績を省みさらに前進するため、これまでの

理事会のほか、広く助言をいただき、時代にあったさらなる活動の活性化をめざして、この度、定款を変更し、8月14日「最初の評議員選定委員会」を開催し、理事会を経て、諮問に応じて審議する評議員会を設置しました。

評議員は、以下の9名の方々です。

### 評議員の方々

柿沼トミ子

全国地域婦人団体連絡協議会会長  
埼玉県国際交流協会理事長

國井秀子

㈱リコー ITソリューションズ取締役会長執行役員  
内閣府男女共同参画推進連携会議議員

潮谷義子

日本社会事業大学理事長  
前熊本県知事

橋本ヒロ子

十文字学園女子大学副学長  
国連婦人の地位委員会日本代表

原ひろ子

城西国際大学客員教授  
日本女性監視機構（JAWW）顧問

坂東真理子

昭和女子大学学長  
農村漁村女性生活活動支援協会会長

美根慶樹

財キャノングローバル戦略研究所研究主幹

本山信二郎

弁護士  
全国婦人会館理事

横田洋三

(公財)人権教育啓発推進センター理事長  
ILO条約勧告適用専門家委員会委員長

### 構成委員会の活動

#### UN Women さくら

毎月25日は女性に対する暴力根絶のオレンジデー。

8月24日の前夜祭を第1回とし、9・10・11月と全国のグループごとにオレンジのリボンをつけて開催。老若男女が共に人権を語り合い、平成25年の3月迄の実行プランが企画され非暴力との対話を進めています。

東日本大震災の応急的措置から長期的対策に軸足が移りつつある昨今、東北支援は11月で50回を超え、これらの活動報告も逐次オレンジデーに乗せて実行中です。「支援が遅い、鈍い、心がない」と現地では言われますが、私たちは生きる喜びを共に享受し貢献する活動として、現地の要望に応え、福島県相馬市の災害公営住宅に街路灯「雪香灯」を設置。市民の復興への灯として輝いています。新しい公共施設として官民共同の枠組みの一つのモデルとなりました。

また、ブロスパー・ポローニャ(桐)を昨年5月に相馬市に植樹。1年で2m以上に成長した木を見た東北の人々からの要望を受け、10月気仙沼(宮城県)にも希望繁栄のシンボルとして植樹。FAWA



国際会議(グアム)では世界163カ国の支援に対して、日本の代表として心からの感謝の意を表し、目に見える支援活動の状況を報告。11月20日に尾崎行雄記念財団主催の会合で女性が支援活動の先駆を切っている様子をパワーポイントで紹介。男女が共に輝く社会の建設を目指し UN Womenの使命を掲げて活動を展開しています。

広報部

#### UN Women よこはま

6月16日(土) ショップに浣刺とした大学生が7人集合。

明治学院大学の行事で One Day for Others という、ボランティアを通じて社会を学び視野を広げる活動の一環で、UN Womenよこはまとのコラボが実現したもの。UN Womenや国連の説明の後、ショップのレイアウトを若い感性で変えてもらいました。また昨年同様、6月に明学からインターン生を迎え、半年間ショップ販売や事務作業、イベント参加を通じてボランティア活動の経験を積んでもらっています。

UN Womenよこはまの活動の柱であるショップが、男女共同参画センターのフリースペース横に移って1年半。見やすくなったと来館者から親しまれています。仕入れや当番のシフト(土・日も開店している)に苦勞はありますが、会員の協力が得られ、

活動収入になり、UN Womenを知ってもらう情報発信の良い場所となっています。

2012年後半の活動は、横浜に3館ある男女共同参画センターの秋のまつり(写真)や、横浜ポートサイドで行われるよこはま国際フェスタ、その他地域のまつりなどに参加して毎週のように会員は飛び回っていました。活動を紹介したり他のグループとの交流を深めたり、グッズや寄付品を販売したりして、忙しくも楽しい秋でした。



11月末にはチャリティーコンサートを開き、母娘の歌手を迎えて美しい歌声を届けました。

そして、毎年開いて6回目になる国際女性デーイベントは「アフリカの女性たちのエンパワーメント」をテーマに講演とシンポジウムを平成25年3月に予定しています。 総務部会長 竹内 美千代

## UN Women 大阪

10月6日(土)、クレオ大阪中央のセミナーホールにて、女性に対する暴力に「ノー」と言おうキャンペーン「エイボン・女性のエンパワーメント基金」の助成を受け、2012年度のチャリティーイベント『桂あやめ×林家染雀 姉様キングス ～女性に対する暴力許しません～』を実施しました。



あやめさんと染雀さんのトークショーにはじまりあやめさんの講演『男の世界に飛び込んで～転んでもただ起きぬ+α思考』、染雀さんの白塗り化粧の実演、そして姉様キングスの音曲漫才と盛りだくさんのプログラムには、大阪ならではのネタがあり、笑いがあり、客席からは笑い声が絶えませんでした。そんな笑いのなかにも、あやめさんの実体験に基づく暴力被害のお話があり、ジェンダー視点のあるお話があり、楽しむだけにとどまらない学びがたくさんありました。当日は85名の参加があり、『明るいエネルギーと元気をもらいました』『楽しく有意義な時間を過ごすことができました』『久しぶりにお腹の底から笑いました』と、喜びの声をたくさんいただきました。

UN Womenについて知っていただくと共に、女性への暴力防止の啓発のためのもとてもよい機会となりました。 事務局 邊見倫子

## UN Women 佐賀

国際協力フェスタに参加して、新しい組織の内容や活動について、パネルやリーフレット等を作成してPRしたいと意気込んでいましたが、台風直下でためになり、至極残念でした。

10月、「エイボン・女性のエンパワーメント基金」助成金事業で佐賀女子短期大学1年生を対象に、大沼もと子さんを講師にお招きしてWen-Doを交えながら「デートDV-親密な関係で起こる暴力」について学びました。



11月、女性に対する暴力をなくす国際デー・キャンペーンにあわせて、おだやかな雰囲気なかで、「聞いてほしいこと/話してみたいこと」をフリートークする会を開きました。産婦人科の女医をアドバイザーにお願いして、今時の若者の性の事情、佐賀の性の健康教育の遅れ、デートDVにもつながる男女のコミュニケーション不足等話しをいただきました。 事務局長 徳久栄子

## UN Women 多摩

発足前から相談をし、サポートしてきたNEW WAY LIFEのグッズ販売の売り上げの報告と今後のグッズのデザインや、新しいグッズの調達をかねて5月、久しぶりにモンゴルに行ってきました。到着した時は空港の外へ出たとたん、ベンチコートを持ってくれば良かったと思いましたが、翌日からモンゴルの人に言わせると、夏が来た、になるようですが、日中の暑さはかなりのもので、冬物ばかりを持っていったことを後悔させられました。しかし周りの景色は緑豊かな草原ではなく茶褐色の風景。ウランバートル中心からも草原が乾燥で自然発火している煙が見えました。

一週間工房で皆さんと一緒に仕事をしてきました。今までミシンを届けたり、キルティングのカーブの作り方を教えたり、デザインのアドバイスをしたりしてきましたが、多くのモンゴルの女性達が技術を身につけ、収入の道が開けている事を実感しました。工房に来れない人は内職にしていました。主催者のセレンゲ・ツェレンダッシュさんは朝早くから、材料を取りに来れない人の家へ材料を届け、製品を引き取るために車で走り回っていました。10時には店を開け、外国人には英語で対応しますが、以前は彼女一人しか英語が出来なかったが、今回はカナダ留学をしてきた女性がマネージャーとして、来客の相

手をしたり、工房の人達との通訳をしてくれるようになっていました。一步一步着実に歩を進めているモンゴルの女性達を、これからも応援していきたいと思いました。

平成25年1月にはセレンゲさんが来日を予定しています。会員皆さんで、モンゴルの女性の現状や、工房の様子や今後の計画、希望などを共有するために講演をしていただく予定です。

今期も終わりに近づきうれしいニュースが飛び込んできました。なかなか足がかりがつかめなかった西多摩に大きな応援をいただける事が決まり、この活動を広げるきっかけになる事と思います。12月には初めて西多摩でチャリティコンサートを開きました。

事務局 小川裕未

## UN Women 堺

活動報告 2012年4月～10月

WEPS [女性のエンパワメント原則] への賛同企業拡大運動/UN Womenの取り組みのひとつであるWEPSへの署名は世界中で450社集められましたが、UN Women堺では日本事務所を支援して堺から250社以上を集めています。また、この取り組みは、内閣府において国の施策となり、女性の経済的エンパワメントが推進されることになりました。今後も啓発と実践に向けて取り組みを進めていきます。

また、もう一つの取り組みとして、オリジナルパープルリボンを作成し、女性への暴力防止について啓発活動を展開中です。

UN Womenの活動を広く周知するために、堺市内各所におけるイベントなどに参画し

理解と協力を求めています。代表 重松加代子



## UN Women 東京

2012年度 事業報告

今年度の活動のハイライトは、映画評論家の松本侑子氏を講師に迎え3回連続講座「映画で学ぶ開発途上国の女性たち」を開催したことです。

その1(4月)は、イラン映画「オフサイド・ガールズ」。なぜ女の子はサッカー場に入れないの?と宗教的伝統に素朴な疑問を投げかけた少女たちの知恵と勇気の物語。

その2(6月)は、モンゴル映画「ラクダの涙」。砂漠に貧しくとも心豊かに暮らす4世代家族の若い母親の賢さが光る物語。

その3(10月)は、セネガル映画。アフリカ等で古くから受け継がれてきた“FGM”の因習から娘たちを守るために避難場所を設け、女たちを抑圧から解放に導く母たちの物語。フェミニズムからジェンダー平等への変遷や女性のエンパワメントの社会的意義について学びました。

好評のチャリティコンサートは、今年も初夏に第19回「佐藤美由紀タンゴの夕べ」(ムジカーザ)、12月には第20回を記念し「天満敦子の世界へようこそ～無伴奏バイオリンコンサート」(津田ホール)を行いました。会員並びに



一般参加者の支援を得て、国連のUN Womenの活動を支える一助となるよう努力する所存です。年3回のニュース・レターの発行も重要な広報活動と位置づけ、紙面のいっそうの充実を鋭意工夫しています。

会長 鷺見八重子

## UN Women 北九州

今年もムーブフェスタ期間に2つのチャリティ・イベントを開催しましたので、ご報告いたします。

1つ目は、恒例になっておりますチャリティ・バザーの開催です。会員や関係団体の皆様からグッズをご提供いただき、会員みんなで値付けから販売までを行いました。毎年このバザーを楽しみにしてくださっている方も多く、当日の7月21日は、多くの市民の皆さんで賑わいました。

2つ目は、チャリティ映画「チェルノブイリ ハート」の上映を7月28日に行いました。

本会では、前回の「マザーテレサ」から2年振りの映画上映会となります。この映画は、1986年に発生したチェルノブイリ原発事故から16年後の2002年、ベラルーシ共和国の「ホットゾーン」の村に住み続ける住民、放射能治療の現場、小児病棟など、アメリカ人の女性ドキュメンタリー作家がベラルーシ共和国を訪れ、いまなお被爆に苦しむ人々の事実を追ったドキュメンタリー作品です。2004年、第76回アカデミー賞でドキュメンタリー短編賞を受賞し、2006年には、国連総会でも放映されました。

上映後には、多くの方から「知らなかったことがわかった」とご好評をいただきました。

事務局長 河野賢司



## 事務局からの報告

### ■ミチエル・バチエレUN Women事務局長来日 歓迎レセプション寄付金

2012年11月13日(火)開催のミチエル・バチエレUN Women事務局長来日歓迎レセプションでのご寄付は、総額46万8000円になりました。ご協力いただいたすべての方々に厚く御礼申し上げます。

■2012年度「市川房枝女性の政治参画基金」に応募し30万円の助成金をいただきました。

UN WomenのDVDから、女性に対する暴力、女性と平和・安全保障、ジェンダー予算という3分野を選び、日本語字幕をつけ広報・啓発資料として広く配布する事業を実施します。

■賛助会費が、寄付控除の対象になりました。賛助会員会費納入の皆様には寄付控除の領収書をお送りします。2013年の確申告の際にご利用ください。

### ■寄付者一覧(前号掲載以降~2012年12月19日現在)

酒井真喜子 宮澤知子 阿南糸代 ビューティ・ショップK 大西珠枝 石橋三洋 岡島敦子 資生堂花椿基金会員ほか有志 株資生堂 稲田和永 青木玲子 アキレス美知子 浅野万里子 阿部幸子 安陪陽子 天野尚子 石田尊昭 伊藤静香 伊藤千鶴子 岩城昌子 上原淳子 江尻美穂子 大須賀はつ富士電機株 大野曜 岡澤則子 岡部文子 小田昭裕 織田由紀子 笠井貴美代 嘉治美佐子 金丸治子 加藤聖子 河合充子 岸田和江 木下彰子 國井秀子 久保洋子 黒田史穂子 桑原正子 後藤久美子 小山志賀子 合田加奈子 桜井陽子 佐々木順子 澤井早和乃 重松加代子 清水あつ子 鈴木啓子 鈴木淑子 鷺見八重子 関富美子 高木宏子 竹内美千代 田中由美子 丹野榮伍 豊田由起子 内藤博子 中村恵江 西村智奈美 西村尚子 西村洋子 箱根芳子 橋本ヒロ子 畑山喜美枝 林陽子 原菊子 原ひろ子 平野恵美子 平間幸江 福田文

子 福島有子 藤井紀代子 平敷淳子 本間美智子 本田敏江 牧島悠美子 牧野迪代 増岡啓子 水上鞠子 水口好久 水口秀子 三竹真知子 実生律子 宮川昌江 三宅定子 向井優子 村松弘恵 森下由季子 百生詩緒子 山口典子 山口みつ子 山下いづみ 山下泰子 山田彰子 山根徹夫 山野辺あみん 山本和代 山本蒔子 吉住喬子 吉田昭代 赤松良子 宮崎千恵 江橋崇 株グッドバンカー 設楽恵美 野村浩子 金子浩之 佐村知子 武川恵子 三隅佳子 渡邊晴子 五十嵐康子 大槻明子 鈴木賀子 高橋敏江 高橋克子 平野和子 宮坂洋子 三輪敦子 平松昌子 目黒依子 吉川真由美 渋谷典子 上里町女性会議 永井多恵子 讃井暢子 飯田寛子 UN Womenよこはま

### ■正会員団体19団体(2012年12月19日現在)

〈団体〉 財アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 財大阪市女性協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 財佐賀県女性と生涯学習財団 NPO法人参画プラネット 全国友の会 ソシエテ彩 UN Women堺 UN Womenさくら UN Women多摩 UN Women東京 UN Womenよこはま 財横浜市男女共同参画推進協会

〈企業〉 イオン1%クラブ 株高島屋 日本たばこ産業株

### ■正会員個人40名(前回掲載以降2012年12月19日現在) 潮谷義子

### ■賛助団体14団体(2012年12月19日現在)

〈団体〉 イエローライン 財京都市男女共同参画協会 久留米市男女平等推進センター 財国際女性教育振興会茨城県支部 越谷ミズの会 財せんだい男女共同参画財団 財大学女性協会静岡支部 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 浜松市男女共同参画推進センター プロジェクトILD 北翔大学同窓会淑萃会

〈企業〉 株グッドバンカー 株電通

### ■賛助個人143名(前号掲載以降2012年12月19日現在)

## (NPO法人) UN Women(国連女性機関)日本国内委員会

旧称:ユニフェム(国連女性開発基金)日本国内委員会

### 事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

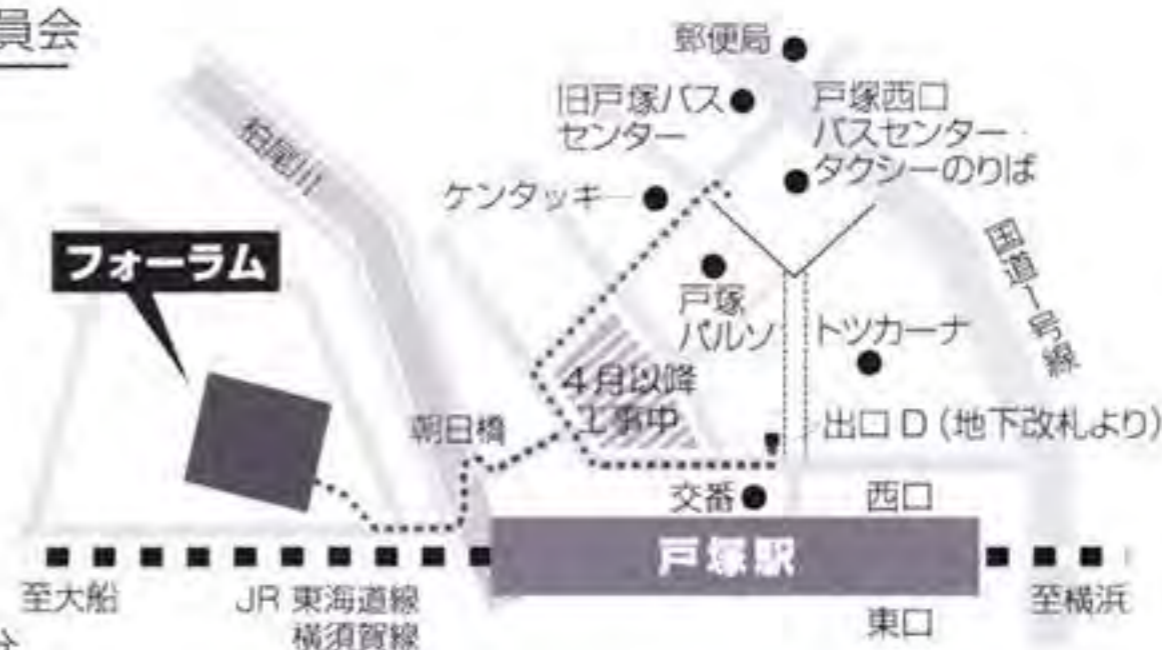
男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL. FAX. 045-869-6787

・Email unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分



郵便振替番号 00240-7-43928 NPO法人 UN Women日本国内委員会